

柏木ビジョン

新宿区立
柏木小学校

2024.5.27

6年生 社会「ともに生きる暮らしと政治」 コース別学習

体育館に6台の大型モニターが並び、そこでは、当日発表にあたっている課題ごとのグループが熱弁をふるっています。24日金曜日の5時間目、研究授業と言うことで、全教員も参観しました。

政治という、子どもたちの生活上は、あまり関わりがないテーマにどのように取り組んでくれるかが、気になるところです。田辺先生は、

「政治というものが、子どもたちの生活にもかかわっていて、役立っているところもあることに気付かせたいです。」

と授業前に話してくれました。また矢沢先生は、

「政治が自分事として考えられ、自分たちの生活に関わっていることを学んでほしいです。」と話してくれました。



モニターテレビに資料を映して発表

どれだけ当事者意識をうったえられるか

この学習で求めているのは、単に調べたことを発表するのではなく、課題に対しての自分たちの考えをもつこと、そしてそれを友達に伝えていくことです。グループごとに、寸劇があったり、クイズがあったり、説明したことから状況や成り行きを予想させたりと、様々に工夫がされていました。また、自分たちの考えや主張する点に対して、聞き手として参加した子達は、発表後出された考えや主張について、車座となってそのことについて、話し合いをしていました。

発表の仕方や声の大きさなどの外見の部分ではなく、発表グループが伝えたいことについての真剣な話し合いが展開されているのが、印象的でした。



これまでと違う授業は…？

発表していた子たちに何人か聞いてみました。

これまでの授業と違って、自分の考えが求められることが困るといふか、怖くはないですか？

「ちょっと怖いかな。でも、弱い人や困っている人にとって何が大切かということを知ってほしいし考えてほしいです。」

「税金のことについてみんなにわかってもらって嬉しいです。理解が進んで、みんなに役立つ税金になってくれればいいと思います。」

「みんなと本気で話し合えました。自分たちの主張が受け入れられない人がいるということにびっくりしたし、そのことを聞いてよかったです。」

知って欲しいことは伝わりましたか？

「障害をもつ人の苦勞について発表しましたが、障害というのは、何かをできないとか、人と違うとかのが問題ではなく、周りの人が何かをしてあげなくてはと考えること自体に、心の障壁があるということが分かってもらってよかったです。」

2人の指導者が意図する授業の根幹

田辺先生は授業についてこのように語ってくれました。

「困っている人やつらい思いをしている人、悩んでいるのに打ち明けられない人、周りの人が考えてあげなければならない人のことを、単に同調したり、理解してあげたいと思ったりするところで、学習を終えたくないのです。一番注意したのは、形式的な発表にならないことです。問題の本質に迫ったり、問題の解決につながるような改善案をもとに、意見を闘わせてほしいんです。」

一方で矢沢先生は、次のように語ってくれました。

「この学習を通じて、人間的な成長につながればと思っています。お互いの考えを聞き合っ、それぞれの課題についての知識が、点ではなく面となっていけるように望んでいます。そのためには、当事者意識をもち、きれい事では終わらせないことが大切です。知った上で理解し、理解したことを解釈し、そのことを行動につなげられるようにしていきたいです。」

授業の成果は？

今回の授業の発表者と同様のテーマに取り組む人も、聞いている中にはいて、考えの広がりや違った視点からの発表で、理解が進んだという子もいました。

この授業は、6月初めの学校公開の際に、再度、来校してくださる皆様もご参加いただいて実施します。6年生が社会の諸問題について一生懸命考えたことについて、ぜひご意見やご感想を、子どもたちに向けて発していただけたら、子どもたちにとってこの上ない学びとなると思われます。

皆様のご参加をお待ちしております。

